

特別の教科 道徳 第2学年 学習指導案

- 1 主題名 「 私たちでつくる校風 」 C-15 よりよい学校生活、集団生活の充実
- 2 資料名 「ハイタッチがくれたもの」 出典「あすを生きる・2」（日本文教出版）

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値観について

集団で協力し合う大切さに気づき、狭い仲間意識を超えよりよい校風をつくろうとする意欲を育てる。

(2)教材について

主人公・裕司は生徒会長を務め、いじめのない学校づくりのために「ハイタッチの日」を提案したが賛成意見が得られない。そんな折、所属する部活動の試合で、チーム全員がハイタッチで喜び合う場を実感し、新たな気持ちで再び提案しようと決意する。狭い仲間意識を克服し、互いの信頼関係を確認しサポートする気持ちがいじめのない学校づくりやよりよい校風づくりやよりよい校風づくりにつながることを気づかせる教材である。

(3)生徒の実態について

個々の生徒は日々の学習活動に前向きに取り組んでいる。個々の生徒の自我が芽生え、自分と相性が合う友達とは仲良くできる一方で、クラスの中の班活動やクラスとしての集団でのコミュニケーションのとり方に課題を抱えている生徒も見受けられる。班やクラスの一員として他人事ではなく自分事として、何ができるのかを考え、行動できる生徒を育てていきたい。

4 年間指導計画における位置づけ

今年度は、4月から6月までの休校期間等があり、年間指導計画どおりに道徳の授業が実施できていない。10月に初めて全校そろっての運動会が実施された。委員会や部活動でも2年生が学校を中心となって活動し始めている。本時の授業は、11月の指導テーマの1つであるが、生徒個々の意識が学校のよい雰囲気をつくるうえで重要だということを育みたい。

5 本時

(1)目 標

集団で協力し合う大切さに気づき、狭い仲間意識を超えよりよい駒沢中の校風をつくろうとする意欲を育てる。

(2)話し合い活動での工夫（感染症予防も含む）

- ・適切な間隔をとりながら、ペアやグループ（4人組）で話し合いながら考えを深めさせる。
- ・ホワイトボードを活用して、話しあったことが見えるようにする。

(3) 展 開

時間	主な学習活動と主な発問	・予想される生徒の反応	◇教師の支援・指導の留意点 ◆評価の観点
導入 5分	1 駒沢中での生徒会活動について話す。 発問 「いじめゼロサミット」とは、どんな取り組みなのか。	・目安箱、あいさつ運動 ⇒生徒による居心地のよい学校づくり	◇世田谷区の生徒会サミットでの取り組みについて話題にしてもよい。
展開 40分	2 教材「ハイタッチがくれたもの」を読み、考える。		
	発問①生徒会のみんなへ呼びかけても、誰も賛同してくれなかったとき、裕司はどんな気持ちになっただろう。(ペアで話しあい、ノートに書く。)	・なんで誰も賛同してくれないんだ。 ・本当にできるのだろうか、心配だ。	◇誰も賛同してくれず、次回まで持ち越しになった裕司の心配で不安な気持ちを考えさせる。
	発問②「みんな大切な仲間だ。」と感じた裕司は、どんなことに気づいたのだろう。(ペアで話しあい、ノートに書く。)	・ハイタッチするたびに自分自身が元気になれる。 ・ハイタッチが仲間をつないでくれた。 ・ハイタッチすることで大切な仲間だと実感できた。	◇ハイタッチするたびに、みんな大切な仲間だと自覚できる関係になれたことに気づかせる。
	発問③裕司がもう一度、ハイタッチを提案しようと決心できたのは、どんな思いからだろう。(個々の考えをノートに書き、グループで話しあい、ホワイトボードに書く。)	・ハイタッチは大切なものだ。 ・学校のよさをさらにハイタッチ運動で広げよう。	◇ハイタッチすることで、仲間の大切さやよさに気づいた裕司が、そのハイタッチを学校をよくすることにつながりたいと考えたことに気づかせる。
	発問④駒沢中のよさや伝統を後輩たちに伝えていくには、どうしたらよいだろうか。(グループで話しあい、ホワイトボードに書く。)	・誰も仲間はずれにしないこと。 ・話しあってものごとを決めること。 ・先輩や学校の歴史を知り、さらに次へつなげること。	◇狭い仲間意識を超え、互いに協力しあうことでよいよい学校をつくることのできることを理解させる。 ◇部活動等での経験から、後輩との関係で課題と感じていることを出させてもよい。

<p>終末 5分</p>	<p>3 話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめる。</p>	<p>・先輩が部活で親切に教えてくれたように、自分も後輩に親切にする。 ・運動会の3年生のダンスはカッコよかった。自分も来年はカッコいい姿を後輩に見せたい。</p>	<p>◇多面的・多角的に考えさせる。よかったことだけでなく、失敗したりうまくいかなかったことからプラスに考えたり、行動できるような発言を促していく。</p>
------------------	----------------------------------	--	--

(4) 授業観察の視点

- ・教師の問い返しや発問補助などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。
- ・駒沢中の校風、良さを前向きにとらえ、個々の生徒がよりよいクラス、学年、学校の一員として何ができるか、どうすればより良い校風が作れるのかを考えようとしていたか。